



- 1 ザ・リッツ・カールトン京都「水曜」。
配光制御技術により、必要な範囲に必要な光だけが当たる。
- 2 高級コンドミニアム「Bishopgate Residences Singapore」の
快適性を追求した照明。
- 3 繊細な光質と無駄を省いた照明設計が際立つ
コムサステージ銀座店。



- 4 機能照明の製品群見本。
約750種類の「パーツ」と「機能」の組み合わせで多様な光を実現。
- 5 社内の一角に設けられたバーカウンター。17時を過ぎると情感のある光の下、
社員と取引先の方がグラスを傾ける(左)、日中は打ち合わせスペースとして活用(右)。
- 6 入口正面「モデュレックス・ウォール」。ロゴがわずかに浮かび上がり、
情感に訴える姿勢がここにも見える。



同社は、照明器具のハードウェアと、空間を効果的に照らすテクニクのソフトウェアを組み合わせ提供しているため、一般の家電メーカーの照明器具より、やや割高になる。しかしその分、メリットも多い。必要な光を必要な所に配置すれば、照明器具数が少なくなり、照明効果も高くなるからだ。曄道悟朗社長は「引き算が情感を生む」と表現する。

「当社の事業ドメインは単なる照明ではなく、ライフスタイルを提供すること」と曄道社長は語る。どんな光をどんな具合に対象に当てるかによって、人の情感に訴える。そこまで含めて初めて照明になるのだと言う。曄道社長は同社（2013年まで社名ウシオスベックス）創業社長の息子で、1916年に姫路で電球事業を始めた家系に連なる。それだけに、照明へのこだわりは半端ではない。

曄道社長は、「もともと照明は、照（何かを照らす）と明（その物が明るい）に分かれる。この両方が重なったとき、その良さが立ち現れることを、昔から照明屋は知っていました」と言う。だが近年、その良さが見失われている。LED（発光ダイオード）が主流になるとともに、「省エネ」を合言葉に量産・低価格化が業界の趨勢となったためだ。

LEDの普及で失った市場から「第二創業」へ

沿革	
1973年	産業用ハロゲンランプを商業空間へ。準備会社設置
1974年	商業空間にとっての光の役割とは何かを求め舞台照明の応用へ
1975年	USHIOSPAX 事業開始
1977年	本社を赤坂に移転
1999年	自社工場ModuleX Factoryを設立
2010年	ModuleX Global カタログ発刊、海外展開がスタート
2012年	ModuleX LIGHTING SOLUTIONS (SINGAPORE) Pte.Ltd.設立
2013年	ModuleX LIGHTING SOLUTIONS (AMERICAS) 設立
2013年	設立40周年を記念し「株式会社モデュレックス」に商号変更

会社概要

所在地	東京都葛飾区堀切1-20-19
設立	1973年8月3日
資本金	1億5700万円
売上高	非公開
従業員数	170名
事業内容	1. 照明器具ならびに光学機器の製造、販売、輸出、輸入 2. 電子ならびに電気機器の製造、販売、輸出、輸入 3. 照明の設計施工 4. 前各号に付帯する一切の事業

URL : <http://www.modulex.jp/ja/>



曄道悟朗社長

端な省エネオンリー志向や過剰なコスト競争、データ上の明るさ競争など、同社の提供する、情感を呼び起こす照明効果とは対極に振れてしまい、市場に安価で粗悪な光が氾濫してしまっただ。そのような厳しい世界市場の中、銀行員出身の悟朗氏が社長に就任、企業存続をかけて「第二創業」に取り組んだ。それは伝統と革新の融合でもあった。

同社は、創業のコンセプトに「NYプロードウェイにおける舞台照明のテクニックの商業空間への応用があり、その照明技術は長い間継承され、ブラッシュアップされてきた。このノウハウを生かして照明の分野に新たな地平を拓くことはできないか。」

そう考えた曄道社長は、光源のLEDは光源メーカーに任せ、フィルター交換によって光の効果を自由に調整できるモジュール方式の照明器具に特化することに決めた。そして、

その商品ブランド名が「モジュール」と「X」（無限大）を組み合わせた「モデュレックス」である。

このブランドで世界に飛躍するべく社名も商品ブランド名に統一。事業内容は、先述のとおり、単に照明器具を製造・販売するだけでなく、使い方のテクニックであるソフトウェアを組み合わせて、ライフスタイルを提供することとした。これにより、取扱製品の約93%が変わり、顧客も約90%が入替わった。社員約170人の仕事の中身はもちろん、彼らの意識もがらりと変わった。

感動を生む「自然の光」を追いかけて、世界ブランドへの飛躍を目指す

「これをよく見てください！ここに当社の目指すものが表現されています」。モデュレックスの本社入り口で、曄道社長が力強く言う。そこには濃い青の背景に白字の社名ロゴが置

かれている。背景の色を指し、「この色がコーポレートカラー、番号はPANTONE 302、RGB（赤緑青）に分解すると、赤の成分がまったく含まれていません」と続ける。

「夜、砂浜から海を見る。満月が低い。そのとき水面に映る光にこれ以上ないほど感動します。地球の歴史と同じくらい長く存在する自然の光です。われわれはこれを永久に追いかけていきます」（曄道社長）。

12年には初の海外現地法人をシンガポールに設けた。中国、東南アジアからインドにかけて存在する確固とした富裕層に認められれば、世界に羽ばたける。手応えは十分。米国・欧州などからも引き合いがあり、拠点を徐々に広げている。家電製品の中で日本ブランドが世界で通用していない照明という分野で、同社は世界を目指す。

（2014年11月）

株式会社モデュレックス

「統合照明ソリューション」による大変革を遂げ、照明の新たな地平を拓いていく

「情感を生む」統合照明ソリューションで、ライフスタイルを提供

株式会社モデュレックスでは、大手百貨店をはじめ、高級ブランド店や建築空間・医療施設・教育施設など幅広い分野へ「統合照明ソリューション」を提供している。店舗などでは、商品の魅力を増強し、引き立たせたい一方で、照明器具が目立つのは無粋とされ、来店したお客様に不快な思いをさせないことも重要になる。そこで、プロのテクニックが求められる。同社ではこういった形の仕事を年間約4000件も手がけている。

いまや年間4000件以上もの統合照明を手がけている株式会社モデュレックス。LED普及により市場が失われた危機を乗り越え、取扱製品も一新、事業を根本からつくり変えた。その道のりとは。

